

## はじめに

史跡・名勝飛鳥京跡苑池は奈良県高市郡明日香村岡に所在する飛鳥時代の庭園遺跡です。

この遺跡は、1999年におこなわれた調査で、はじめてその存在が確認されました。これまで4次にわたる調査で、以下のことがわかっています。

- ① 苑池は渡堤で仕切られた南北2つの池で構成され、北池からは水路が北に向かってのび、先端が西側に曲がります。
- ② 南池の規模は、南北約55m、東西約60m、深さ1m、底には石を平らに敷き詰め、池の中に島や石造物が設置されていました。
- ③ 北池の深さは3mあり、南池より深くなっていました。
- ④ 水路から、苑池の機能や性格を示す木簡が出土しました。

今年度より、史跡・名勝飛鳥京跡苑池の保存整備活用事業が実施されることになりました。そこで今回、その基本構想を計画するために、発掘調査をおこないました。

調査の目的は、これまでよくわかっていない、北池の規模と形態を確認することと、北池の東側で、苑池の区画施設の有無および宮域との位置関係を確認することです。

## 調査の内容

1区では、北池の北岸と東岸を検出して、北池の北東隅を確認しました。北岸は、東西方向に直線で、人頭大の石を1m以上積み上げています。東岸は、南北方向に直線で石を積み上げていますが、上部が崩れていて、北岸とは異なった構造である可能性があります。両方の護岸の裏込め上面には、5～15cm大の石が敷き詰められています。池底には、石を平らに敷いています。

池の中には、植物の腐植土が1m以上堆積していて、出土した土器から、鎌倉時代までには埋まったようです。

2区では、砂利敷き、石組溝、石列を検出しま

した。砂利敷きは、調査区のほぼ全面に広がっています。西に向かって下がる自然地形に沿って、なだらかな傾斜面をつくり、2～10cm大の石を敷いています。東護岸までの間は、全面砂利敷きであった可能性があります。

石組溝は、調査区の東端で検出しました。ほぼ正方位の南北方向で、幅約55cm、深さ約14cmです。側石と底石からなり、側石は1段であることから、建物や塀の雨水を受ける雨落ち溝と考えられます。したがって、石組溝の東側に、それらの施設が存在する可能性があります。

石列は、調査区を斜めに横切っています。砂利敷きを覆う造成土の西端に石を据えており、石列の設置時期は砂利敷きよりも後と考えられます。

## まとめ

今回の調査成果をまとめると、以下の通りです。

- ① これまで不明であった北池の規模と形態が明らかになりました。その規模は、南北が46～54m、東西が33～36mで、南北に長い形態となります。
- ② 北池の東側（宮殿側）の状況が明らかになりました。東側は、砂利敷きの広場が広がっていたことがわかりました。

このように、今回の調査によって、今後の保存・整備・活用に向けての貴重な成果が得られました。しかし、苑池全体の形状や内部施設の構造を把握するため、今後とも調査を実施していく必要性があります。

(卜部行弘・鈴木一議)

## 史跡・名勝飛鳥京跡苑池第5次調査

(飛鳥京跡第169次調査)

現地説明会資料

2011年2月6日

奈良県立橿原考古学研究所

〒634-0065

奈良県橿原市畝傍町1番地

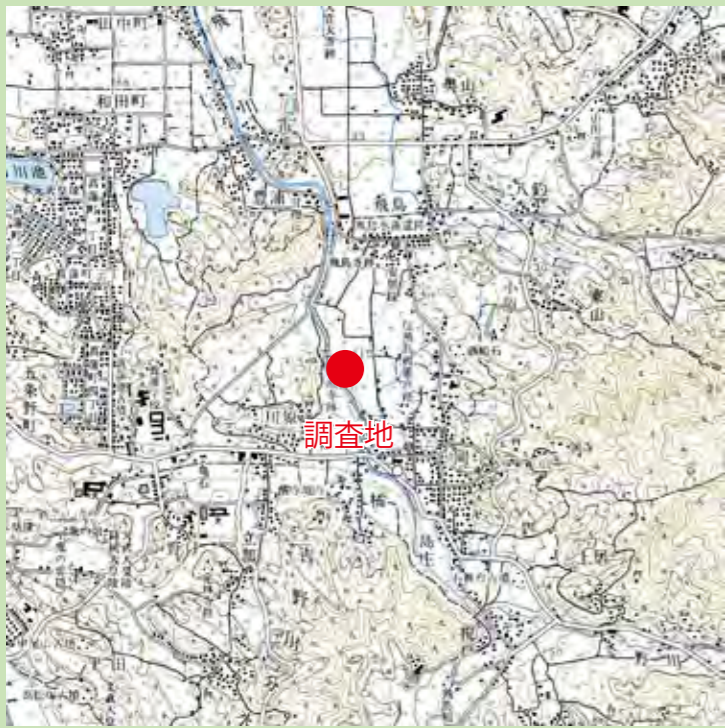
Tel. 0744-24-1101

<http://www.kashikoken.jp/>

(ホームページでも現地説明会の案内・説明内容をご覧いただけます)

# 史跡・名勝飛鳥京跡苑池第5次調査 (飛鳥京跡第169次調査)

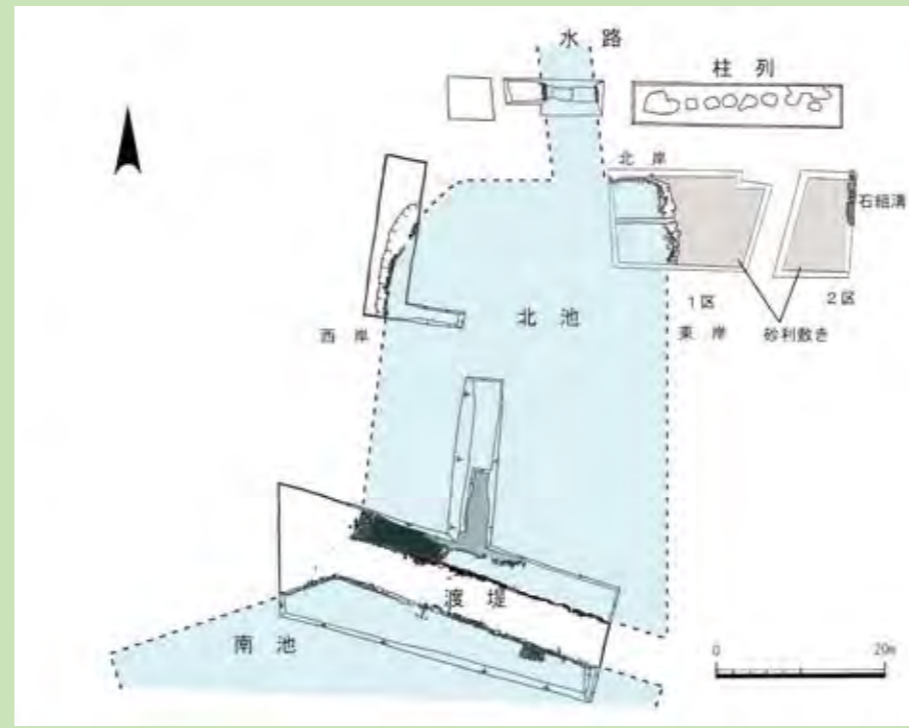
奈良県立橿原考古学研究所



調査地位置図  
「国土地理院発行1/25,000地形図(畝傍山)を使用」



飛鳥京跡苑池と今回の調査区  
1/1,000飛鳥京(1)、(2)



北池の復元図



石組溝 (2区・北から)



調査区の航空写真 (上が北)



北池 (1区・北西から)



砂利敷き (2区・北西から)